

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

年 月 日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	越前俊也
研 究 題 目	美術と公共性	
研 究 成 果 の 概 要	<p>1. 「野島康三の陶磁器写真—柳宗悦と富本憲吉のはざまにあって—」『美学芸術学』第24号、2010年3月15日刊、1-26頁</p> <p>2. 「明治28年開催『時代品展覧会』について—最初の日本美術史大展覧会の内容と開催経緯—」『博物館学年報』第41号、2010年3月31日刊行予定、頁数未定</p> <p>論文1では、大正期から昭和の前半にかけて活躍した写真家・野島康三が陶磁器を被写体にした写真を取り上げ、それがバロック的もしくは遠隔視的な捉え方をした写真から通常視的写真へと変化していった経緯を紹介した。近接視的もしくは触覚的写真が多い日本の陶磁器写真のなかにおいて、こうした野島の陶磁器写真はいずれにしても特異な存在であった。その特異さが野島の写真に現われる背景として、野島が柳宗悦や富本憲吉ならびにバウハウスの陶磁器写真を撮影したルチア・モホイ＝ナジからの影響を受けていたことを理由として取り上げた。</p> <p>論文2では、第四回内国勸業博覧会が京都で開催された明治28年に京都の仙洞御所で開催された「時代品展覧会」の内容と開催経緯を紹介した。当時宮内省にあった九鬼隆一の主導で進められていた宝物取調の成果が初めて反映された同展は、その内容が重要であるにもかかわらず、これまで詳細が明らかにされることがない。出品目録、会場図面などを通して、まずその内容を明らかにし、次にそれが東アジア文化圏のなかの日本美術史として構想されながら、次第に帝国史観に基づく、日本一国だけのものを扱う美術史へ内容が変化していった経緯を紹介した。</p> <p>論文1に関しては、同名のタイトルで2009年10月31日(土)同志社大学今出川校地神学館で開催された「美学芸術学会全国大会」で研究発表を口頭で行なった。</p>	